

動詞の不定形

ケチュア語では、動詞の不定形はつねに□y□で終わる。

【例】

| 語幹 | | 語尾 | | 不定形 | |
|-------|---|----|---|--------|------|
| rima | + | y | = | rimay | (話す) |
| puri | + | y | = | puriy | (歩く) |
| ri | + | y | = | riy | (行く) |
| ranti | + | y | = | rantiy | (買う) |

動詞の基本活用—直接法現在・過去・未来—

ケチュア語では、不規則変化する動詞はない。

現在

| | |
|---------------------|------------------|
| noqa rimani | (一人称単数) |
| qan rimanki | (二人称単数) |
| pay riman | (三人称単数) |
| noqayku rimayku | (一人称複数、話し手側のみ) |
| noqanchis rimanchis | (一人称複数、聴き手側をも含む) |
| qankuna rimankichis | (二人称複数) |
| paykuna rimanku | (三人称複数) |

* なお、一般に、この形は肯定文や否定文において過去の意味でも使用されることがある。しかし、疑問文のばあいはそうはならない。

【例】

Kachita aparankichu?(あなたは、塩をもっていきましたか。)

-Mana apanichu.(私はまだもっていません。)

-Mana kachita apaykuchu.(私達はまだ塩をもっていません。)

T'antata mikhurankichu? (あなたはパンを食べましたか。)

-Arí, mikhuni.(はい、私は食べました。)

-Naha tutamanta mikhuni.(私は今朝食べました。)

-Mana t'antata mikhunichu.(私はまだパンを食べていません。)

過去

noqa rimarani(rimarqani)
qan rimaranki(rimarqanki)
pay rimaran(rimarqan)
noqayku rimarayku(rimarqayku)
noqanchis rimaranchis(rimarqanchis)
qankuna rimarankichis(rimarqankichis)
paykuna rimaranku(rimarqanku)

未来

noqa rimasaq
qan rimanki
pay rimanqa
noqayku rimasaqku
noqanchis rimasun(rimasunchis)
qankuna rimankichis
paykuna rimanqaku

第 1 課 の 接 尾 辞

①□ta□…接尾辞□ta□は、対格の名詞について他動詞の直接目的語を示す。

【例】

Noqa qheswata rimani.(私はケチュア語を話します。)
Pedro t'antata rantin.(ペドロはパンを買います。)
Noqayku kachita rantiyku.(私たちは塩を買います。)

②□ta□…しかし、形容詞につくと、それを副詞に変える。

【例】

Paykuna allinta rimanku.(彼等はよく話す。)
Sara sumaqta rurun.(トウモロコシがたくさん実った。)
Erqe millayta waqan.(子供ははげしく泣く。)

③□chu□…接尾辞□chu□は、否定文や、疑問詞をともなわなない疑問文をつくる
るとき、または否定疑問文をつくるときに使われる。

【例】

Pay mana runasimita rimanchu.(彼はケチュア語を話さない。)

Pedro mana qolqeta munanchu.(ペドロはお金はほしくない。)

T'antata munankichu?(あなたはパンがほしいですか。)

Manachu qheswata rimanki?(あなたはケチュア語を話さないのですか。)

*この接尾辞は、名詞にも動詞にも形容詞にも副詞にもつくことができる。そして話し手の置かれている状況や必要におうじて表現が変わる。

④□pas□または□pis□…この接尾辞は、主語ないし目的語が既述のものと同じであることを示すために使用する。「もまた」とか「と同様に」の意味。

【例】

Noqapas qheswata rimani.(私もまたケチュア語を話します。)

Erqepas waqan.(子供もまた泣く。)

T'antapas mikhuyku.(私達はパンも食べます。)

Mana t'antapas rantinchi.(彼はパンも買わなかった。)

T'antapas asukartapas rantiyku.(私達はパンも砂糖も買いました。)

Noqapas Luispas runasimita rimayku.(私もルイスもケチュア語を話します。)

Mana asnupas uwihapas kanchu.(ロバも羊もいない。)

第 2 課 の 接 尾 辞

①□taq…ri□…これらの2つの接尾辞は単独でも共同でも使用され、奇異や親愛の念をこめた質問をするときとか、たんに話を切り出すためとかに使用される。普通は、口調をととのえるための接尾辞である。なお、□ri□のついている単語でもって質問が開始されるばあい、そのうえにアクセントをうつことがある。

【例】

Imataq sutyikiri?(あなたのお名前はなんといいますか。)

Qanrí pi kanki?(で、あなたは誰ですか。)

Maytataq rinkichisri?(あなたがたはどちらにお行きになりますか。)

Wawaykikunari imaynallan kashanku?(で、あなたの子供達はいかがですか。)

Luisri maypitaq tiyan?(で、ルイスはどこに住んでいますか。)

これらの接尾辞が感嘆文の中で使用されると、怒りや不安、心配や喜びなどをあらわす。

【例】

Yaw erqe, imataq ruwankiri!(おい君、なにをしてるんだ!)

Imataq kay vidari!, manan qolqepas kanchu.(なんという人生なんだ!お金もない。)

Haqay k'acha sipasrí, piwantaq kasaranta!(で、あの優雅な娘さんは誰と結婚するんだろう!)

会話においては、省略文にも使用されることがある。共同で使用されることもあるが、□ri□単独のばあいもある。

【例】

pitaqri?(誰ですか。)
Imataqri?(なんですか。)
Sutiykiri?(で、あなたのお名前は?)

□taq□は複文の中で使用されるばあい、対照をあらわす。つまり後半の動詞の行為者や行為は、前半のものとは対照的である。なお、行為などの分担を示すこともある。

【例】

Luisqa t'antata mikhun, Pedrotaq hank'ata mikhun. (ルイスはパンを食べ、ペドロはいりとうもろこしを食べる。)
Kunan parashan, paqarintaq ruphayanqa.(いまは雨がふっているが、明日は晴れるだろう。)
Noqayku qhatuyku,qankunataq rantinkichis.(私達が売って、あなたがたが買う。)
Sara tarpuypiqa qan yapunki, noqataq husq'asaq.(トウモロコシの播種では、あなたが土をおこして、私が種をまく。)

□taq□はまた、いくつかの動作がほとんど同時に、あるいは一定の期間、または一定の場所で行なわれることを示す。

【例】

Noqaqa wayk'unitaq, estudianitaq, chakrapi llank'anitaq.
(私は料理したり、勉強したり、畑仕事をしたりします。)
Wawaqa asishantaq, waqashantaq.
(赤ちゃんは笑ったり泣いたりしています。)
Paqarinqa, phistapi takisaqtaq, tususaqtaq, parlasaqtaq.
(明日のフィエスタでは私は歌ったり、踊ったり、おしゃべりしたりしよう。)

②□qa□…この接尾辞もまた、ことばで表現しようがないが、ケチュア語の表現にとってなくてはならない接尾辞である。この接尾辞は注意を引いたり、その単語を強調したりするためのものである。話題を提示するための接尾辞である。日本語の「は」の役割に似ている。

【例】

Luisqa allin wiraqocha. (ルイスはいい紳士です。)
Noqaqa Punomanta kani.(私はプーノ出身です。)
Amiguypa chakranpiqa papapas sumaqta rurun.(私の友達の畑では、ジャガイモもたくさん取れる。)
Noqaykuqa kastil lanutapas rimayku.(私達はスペイン語も話します。)
Kalistaq taytanqa nishuta machan.(カリスタの父は深酒する。)

③□pi□…この接尾辞は、ある行為が行なわれる場所や、だれかがいる場所を

示す。

【例】

Pedroq wasinqa Qosqopi.(ペドロの家はクスコにある。)

Amiguypa chakranpi llank'ayku.(私達は私の友達の畑で働きます。)

Iskay lapisqa mesa patapi kashan.(2本の鉛筆が机の上にある。)

Maypitaq tiyankiri?(あなたはどこに住んでいますか。)

そのうえ、接尾辞□pi□はある行為が行われる時間を表わすことがある。同様に、行為の方法ないし様態、通信運輸手段をあらわす。

【例】

Huk killapi llank'anata tukun.(彼はその仕事を1か月でやりおえた。)

Iskay watapi qheswa yachayta tukusaq.(私は2年でケチュア語を習得しよう。)

Noqaykuqa musikapi hamuyku.(私達は音楽をききながらやってきました。)

Mamacha Mariata andapi apashanku.(彼等は、聖母マリア像をみこしに乗せて運んでいる。)

Paykunaqa karrupi Limaman rinku.(彼等は車でリマへ行く。)

Eskuylataqa chakipi rini.(私は徒歩で学校に行きます。)

Erqeqa mana puñuyta atinchu aphanpi.(子供は、騒がしくて眠れない。)

Taytayqa telefonopi parlashan.(私の父は電話で話しているところです。)

この接尾辞が指示形容詞につくと、それを場所の副詞に変える。

【例】

Kay runaqa kaypi tiyan.(この人はここに住んでいる。)

Chay erqeqa chaypi pukllan.(その少年はそこで遊ぶ。)

Haqay asnuqa haqaypi puñun.(あのロバはあちらで眠る。)

④□n□と□mi□…この接尾辞は強調あるいは証人の接尾辞として知られており、よく使用される。話し手は自分の表現が確かであり、実際に見たか参加したことを示す。□n□は母音で終わる単語のばあい、そして□mi□のほうは子音で終わる単語のばあい使用される。

【例】

Miguelqa allin wiraqochan.(ミゲルは立派な紳士だ[と私は確信する]。)

Noqaqa Yukaymantan kani.(私はユカイの出身です[間違いなく]。)

Chakrapin llank'anku paykunaqa.(彼等は畑で働いている[のを私は見た]。)

Lukasmi karrupi Limata rin.(ルカスは車でリマに行った[私が証人だ])

Asnukunaqa mikhushankun q'achuta.(ロバ達は牧草を全べている。)

Haqayqa panaypa wasinmi.(あれが私の姉の家です。)

⑤□man□□ta□…これらの接尾辞は移動の方向をあらわす。

【例】

Haku Marasta.(マラスに行きましょう。)

Lukaspas Qosqomanmi rinqa.(ルカスもクスコへ行くだろう。)

Hawa llaqta sipaskunapas Limamanqa chayankun.(田舎の娘達もリマに着く。)
 Urubambataqa karrupin riyku.(私達は車でウルバンバに行きます。)
 Wilkamayurí maymantaq chayan?(で、ビルカノタ川はどこに通じていますか。)
 Haqay ñanpas Saqsaywamanmanmi rin.(あの道もまたサクサイワマンに通じています。)
 Satukaq asnunkunaqa Yukaymanpas Kalkamanpas purinku.(サトウルニーナのロバ達は、ユカイにもカルカにも行きます。)
 Llank'aqkunaqa nahan orqota kutinku.(労働者達はさきほど山へ帰りました。)
 Pablon wakataqa mayuman qatin.(パブロは牛を川のほうへ追っていった。)

*これら2つの接尾辞のあいだにはほとんど差はない。しいてあげるなら、□ta□は人間がめざしている正確な方向を示すのにたいして、動物とか川や道などのばあいには□man□が使用されがちである。

⑥□manta□…この接尾辞は起点を示す。

【例】

Warma-yanaykirí Punomantachu?(で、あなたの恋人はプーノの出身ですか。)
 Wasiymanta wasiykiman hamuni.(私は自分の家からあなたの家にやってきました。)
 Llank'aqkunaqa chakramanta hamushanku.(労働者達が畑からやってくるところです。)
 Raulpa amigunqa Argentinamanta.(ラウルの友達はアルゼンチンの出身です。)

この接尾辞はまた時間の起点もあらわす。

【例】

Paqarinmanta eskuylaman risaq.(私は明日から学校に行きます。)
 Turanchisqa hamuq killamanta llank'ayta qallarinqa.(私達の兄は来月から働き始めるだろう。)
 Minchhamantaqa manan hamusaqñachu wasiykitaqa.(明後日からはもう私はあなたの家には来ない。)
 Kunanmantayá chakrata llank'anki runa hina.(いまからは、あなたが一人前に働くのだよ。)

⑦□ta□…ある動詞の不定形が主動詞の目的語となっているとき、□ta□はその不定形につくことができる。

【例】

Noqaykupas llank'ayta qallarishayku.(私達も働きはじめるところです。)
 Lliklla awaytapas manan tukuyta atishanichu.(私はまだ風呂敷を織りあげることができていません。)
 Haqay qella erqekunaqa manan mikhuyta munankuchu.(あの怠け者の少年たちは、食欲がない。)

Amigaypa amigunqa manan runasimi rimayta yachanchu. (私の女友達の友達は、ケチュア語が話せない。)

Wasi masiyqa aqhayta tukushanña.(私の隣人はもうチチャをつくりおえようとしている。)

⑦□yá”…この接尾辞はその人の感情の状態を強調し、疑問文以外なら、肯定文でも否定文でも感嘆文でも使用される。ときには喜びや活気、ときには苦悩や憂うつや無気力をあらわす。なお、この接尾辞はほとんどつねに語の一番後ろにつく。ただし、さらに強めるための□ri□がくるばあい、□y □はその前に置かれ、アクセントも打たない。

【例】

Hakuyá kuska.(では一緒に行きましょう。[喜んで])

Runasimitayá eskuylapi yachashayku.([もちろん]私達は学校でケチュア語を学んでいますとも。)

Luischaqa manayá allintachu sutinta qelqan. (ルイス[あのバカ]は自分の名前もちゃんと書けない。)

Manayá qanta munaykichu, ñawiyqa hoqtayá qhawashan.(それでね、私はあなたを好きではない。私の目は他の人を見詰めているのだから。)

Taytaykiqa allin runayá karan, allintayá llank’aranpas.(あなたのお父さんはいい人でしたよ。なにしろよく働いたのだから。)

Kutiyá wasiykiman, warmiykipas churiykipas waqashankun.

(もういいかげんにして、家に帰りなさい。奥さんも子供さんも泣いているのだから。)

Yaw qella, llank’ayari.(おい怠け者、働けたら。)

命令法

直接命令法

(1)二人称単数にたいして…Rimay.(あなたが話しなさい。)

(2)二人称複数にたいして…Rimaychis.(あなたがたが話しなさい。)

間接命令法

(1)三人称単数にたいして…Rimachun.(彼が話すように[いいなさい]。)

(2)三人称複数にたいして…Rimachunku.(彼等が話すように[いいなさい]。)

禁止釣命令のばあいには、□ama□をその前におく。

【例】

Ama rimaychu.([君は]話すな。)

Ama rimaychischu.([君等は]話すな。)

Ama rimachunchu.(彼が話さないように[いいなさい]。)
 Ama rimachunkuchu.(彼等が話さないように[いいなさい]。)
 Qanpas allinta rimay.(あなたもよく話しなさい。)
 Paykunayá llank'achunku, noqaqa manan llank'asaqchu.(彼等に働くようにいいなさい。私は働きません。)
 Ama parlaychu kallipiq. (道路ではおしゃべりをするな。)
 Hamuchun Migue1 usqhayta.(ミゲルをすぐに来させなさい。)

所有のあらわし方

所有代名詞…代名詞に接尾辞□q□(母音で終わるばあい)または□pa□(子音で終わるばあい)をつけて、つくる。なお、□q□は□qpa□の形で用いられるばあいが多い。特に意味はない。しかし□pi□(だれ?)のばあいは必ず□piqpa□となる。これらの接尾辞は普通の名詞にもつく。

noqaq (私のもの、私の)
 qanpa(あなたのもの、あなたの)
 paypa(彼のもの、彼の)
 noqaykuq(私達のもの、私達の)
 noqanchispa(私達のもの、私達の)聞き手をふくむ]
 qankunaq(あなたがたのもの、あなたがたの)
 paykunaq(彼等のもの、彼等の)

人称代名詞の所有格

| | |
|----------------|----------------------|
| wasi + y | wasiy(私の家) |
| wasi + yki | wasiyki(あなたの家) |
| wasi + n | wasin(彼の家) |
| wasi + yku | wasiyku(私達の家) |
| wasi + nchis | wasinchis(私達の家) |
| wasi + ykichis | wasiykichis(あなたがたの家) |
| wasi + nku | wasinku.(彼等の家) |

【例】

Kayqa noqaq wasiy. (これが私の家です。)
 Chayqa noqaykuq. (noqaykuqpa.)(それは私達のものです。)
 Paypa wasinpi noqa llank'ani.(彼の家で私は働きます。)
 Asnuq uñanqa yana.(ロバの子は黒い。)
 Migue1pa llaqtanpiqa papapas kanmi.(ミゲルの村にはジャガイモもある。)
 Piqpa chakranpitaq llank'ankichisri? (だれの畑であなたがたは働きますか。)

Huanaq (Huanaqpa)chakranpi llank'ayku.(私達は、ファナの畑で働きます。)
 Maypitaq erqeykiri kashan?(で、あなたの息子はどこにいますか。)
 Erqeypas qosaypas taytaypa wasintan rinku.(私の息子も夫も私の父の家に行きました。)
 Erqeypas qosaypas taytaypatan rinku.(私の息子も夫も私の父のところに行きました。)
 Llaqtaykupiqa arrosllata tarpuyku.(私達の村では、コメだけをまきます。)

第 3 課 の 接 尾 辞

①□sha□…接尾辞□sha□は動詞の進行形をつくり、その動作の進行性を表わす。第3課の基本会話にでてくる□sha□は現在進行形を示しており、話し手が話しているまさにその時に動作が進行中であることを意味する。□sha□のつく動詞の時制は、過去でも未来でもありうる。過去時制のばあいは、話し手がその動作の行なわれたまさにその時を思いだしながら話しているのである。未未来時制のばあいは、その動作がある一定の時までつづくことを、あるいは他の動作が行なわれているあいだつづくことを意味する。また、話し手が未来のある時に思いをはせながら話していることを表わす。

【例】

Luis qelqashan. (ルイスは書いている。)
 Pedroqa kastillanopi kartata qelqashan.(ペドロはスペイン語で手紙を書いています。)
 Noqaqa mikhusharani qowi kankata.(私は、クイの焼き肉を食べていました。)
 Qhayna wataqa phistapin tususharani.(昨年私はフィエスタで踊っていました。)
 Hamuq watapiqa llaqta masiykunapas allinyá kashanqaku. (来年は私の村の人々も幸せにしているでしょう。)
 Paqarinqa eskuylapi kashasaq chawpi p'unchaykama.(明日私は正午まで学校にいます。)
 Paramushan! Chaykama aqhata aqhashaychis.(雨がふっている!そのあいだにあなたがたがたはチチャをつくりなさい。)

②□man□…この接尾辞は第2課で指摘した意味にくわえて、行為者がある場所へ移動する目的ないし対象を示す。その目的はある物の取得であったり、あるいは誰かを見付けることであったり、集まりに参加することであったり、見世物をみにいくことであったりする。

【例】

T'antaman rishani.(私はパンを買いに[とりに]いきます。)
 Warmipas qharipas misamanmi rishanku.(男も女もミサに行くところです。)

Wiraqocha Marioqa huñunakuyman rishan.(マリオ氏は会合に行くところです。)
Huanqa taytanmanyá autopi tarpanqa.(ファンは、彼のお父さんに車で追いつこうと
しています。)

③□lla□…限定の意味をあらわす接尾辞□lla□はおおくの品詞につくことができ
る:たとえば、名詞・動詞・形容詞・副詞など。そして、つぎのように訳すこ
とができる:「…だけ」、「あいかわらず」、「いつものように」、「たびたび」、「…
するのが常である」など。ただし、挨拶のときに使用されると、親愛の情をあら
わす。

【例】

Allinllachu kashanki?(お元気ですか。)

Qhalillachu qosayki kashan?(ご主人にはお変わりありませんか。)

Lukasllan paypa amigun。(ルーカスだけが彼の友人です。)

Kaypiqa rit'ishallanmi, parapas parashallan.(当地ではまだよく雪も雨も降っていま
す。)

Manan Marasllatachu reqsini, Urkustapas reqsiniyá.(私はマラスだけではなく、ウル
コスも知っています。)

Machupikchutaqa rillayku.(私達はよくマチュピチュに行きます。)

Kalistaq alqonqa tullulla kashan, ichaqa phiña alqon.(カリスタの犬はいまも痩せっ
ぽちですが、猛犬です。)

Imallatan munan haqay runa?(あの人は一体何がほしいのですか。)

④□chu□…疑問文において、2つないしそれ以上の単語に連続して□chu□が
つくばあい、その質問が択一的な答えをもとめていることを示す。

【例】

Chakipichu karrupichu risunchis?(歩いて行きましょうか、車で行きましょうか。)

Wiksaykichu umaykichu nanashan?(あなたは胃が痛いのですか、それとも頭です
か。)

T'antatachu, mut'itachu, hank'atachu warmachayki munashan?(あなたの子供はパン
がほしいのですか、ゆでとうもろこしですか、それとも煎りとうもろこしです
か。)

Yaw sipas, kay waynata munankichu manachu?(やあ娘さん、この青年を好きですか、
どうですか。)

Yaw erqe, kaytachu haqaytachu munanki, ama qaparqachaychu!(ほら小さいの、これ
がほしいのか、あれがほしいのか。わめくのじゃない。)

第 4 課 の 接 尾 辞

①□neq□…近接の接尾辞□neq□は、場所や時間をあらわす名詞等について、

「おおよそ」、「…の近く」、「…頃」などの意味をあらわす。

【例】

Mayuneqpin pukllashanku.

(彼等は川のほとりで遊んでいます。)

Mayneqmantaq apashankichisri?(だいたいどちらのほうへ、あなたがたは運んでいくのですか。)

Tardeneqpi tupasunchis.(午後に会いましょう。)

Mayneqtan k'akraman rishanki?(だいたいどちらのほうへ、あなたは陶器を買いに行くところですか。)

Asnulla kayneqqiqa q'achuta mikhusharan.(このあたりでは、ロバだけが牧草を食べていました。)

(注)これらの例からわかるとおり、□neq□のあとには、場所をしめす接尾辞□pi□や方向をあらわす接尾辞□man□や□ta□等がつづくことができる。

第 5 課 の 接 尾 辞

①□yoq□…この接尾辞は、所有ないし保有をあらわす。どんな名詞であれ、この接尾辞がつくと、そのものの所有者であることをしめし、名詞的にも形容詞的にも使用することができる。

【例】

Wasiyoq hamunqa.(家主が来るでしょう。)

Wasiyoq wiraqochaqa manan qelqayta yachanchu.(家主の紳士は字を知りません。)

Haqay runaqa askha allpayoqmi.(あの人は、たくさんの土地をもっています。)

Panchoq warminqa iskay chunka watayoqtaqmi.([あのねえ]パンチョの奥さんは 20 才です。)

Kallpayoq runakunalla llank'ashanku, asindayoqtaq qhawashallan.(力のある人間だけが働いており、農園主は見ているだけです。)

Qolqeyoqkunaqa qhapaqtaq maqlлатаq kanku.(金をもっている者は裕福だが、けちでもある。)

②□ni□…この音調上の接尾辞□ni□は、子音で終わる名詞を□yoq□もしくは所有代名詞と結びつけるときに使用する。

【例】

Kaqniyoq phamillaqa allinta mikhun.(裕福な家庭は十分に食べる。)

Asnupas sorq'anniyuqmi.(ロバにも肺がある。)

Soqosniykuta astasaqku.(私達は目分達のミズガヤを運びましょう。)

Haqay señoraq yawarninga mana allinchi, chayrayku hanpiqman rishan.(あの女性の

血液は良くない。それだから、お医者に行くところです。)

③□cha□…この接尾辞は、人やもの一般の縮小辞である。ふつうは情愛をあらわすが、文脈によっては軽蔑をしめすときもある。

【例】

Alqochayqa yuraqcha.(私の犬ちゃんはまっ白です。)

Ñañachayqa eskuylaman rinqa.(私の妹は学校に行くでしょう。)

Awilachayqa allinllan kashan.(私のおばあちゃんは元気です。)

Luischaqa manan allintachu llank'an. (ルイスの奴はあんまり働かない。)

④□raq□…この接尾辞□raq□は、その名のとおり、ある行為やあるものの存在が継続していることをあらわし、「まだ」とか「いまなお」と訳すことができる。そして動詞にも形容詞にも副詞にもつく。なお、否定文においては、□mana□もしくは動詞、あるいはその両方につくことができる。

【例】

Machulayqa llank'ashanraq.(私の祖父はまだ働いています。)

Sarayki askhacharaqchu kashan?(あなたのとうもろこしは、まだたくさんありますか。)

Asindayoqqa manaraq allintachu runasimita riman. (農園主は、まだケチュア語がよく話せません。)

Miguelqa mana allintaraqchu japonesta riman.(ミゲルは、まだ日本語がよく話せません。)

Erqechankuqa manaraq puñunraqchu.(彼等の子供は、まだ眠っていません。)

Manaraqchu hanpiq hamun? (医者はまだ来ませんか。)

⑤□ña□…この接尾辞の意味は、□raq□の意味とちょうど反対である。したがってある行為やあるものの存在が、現在もしくは未来において、すでに完了していることを示す。否定文においては、その行為が中断されたか、もはや行なわれていないか、あるいはたんにそのものがもはや存在しないことを示す。

【例】

T'antataqa rantiykuña.(もう私達はパンを買いました。)

Chayllapi saquesaq, Luisña apanqa.(そこに置いておこう。ルイスが運ぶだろう。)

Japoneskunapas runasimitaqa aintaña rimashanku.(日本人達もまた、もうケチュア語をよく話しています。)

Ña paykunaqa Qosqota reqsinkuña.(彼等は今クスコをよく知っています。)

Manañan kallipay kanchu.(私にはもう力がありません。)

Manañan qolqey kanñachu.(私にはもう金がありません。)

Mana wasiypas kanñachu.(私にはもう家がありません。)

(注)接尾辞□ña□は、他の接尾辞にも動詞にも形容詞にも副詞にもつくことが

できる。そのうえ、接尾辞としての□ña□に加えて、肯定文や疑問文では□ña□を前置することもできる。ただし、否定文においては、□mana□のあとにつける。なお、ひとつの文の中に□ña□を2つ使用することもできる。

⑤□kuna□…この接尾辞は、複数形をつくるときに使用する。

【例】

Warmachakuna pukllashanku.(子供達が遊んでいます。)

Wayna-sipaskunapas haqaypin aqhata ukyanqaku.(若者や娘達もあちらでチチャを飲むでしょう。)

Kinsa warmikuna sumaq mikhunata wayk'unku.(3人の女はおいしい料理をつくります。)

Alqokunaqa chakra panpamantaq phawashanku.(犬達は畑のほうへ走っていきます。)

Asnukunalla q'achuta mikhushanku.(ロバ達だけが牧草を食べています。)

Iskay alqoykuna wasiyta qhawashanku.(私の2匹の犬が私の家を見はっています。)

Tawa uwihallayna kawsashan.(私の4頭の羊だけが生きています。)

Kay p'ukukunari hayk'ataq valin?(これらのお皿はいくらしますか。)

Tawa t'antachallata apamuni.(私はたった4つのパンだけもってきました。)

Lukasqa chunka librota rantishan.(ルカスは、10冊の本を買うところです。)

Pisqa qelqana (kuna) mesapatapi kashan.(机の上には5本の鉛筆があります。)

Mamanikunapas phistamanqa rinku.(ママニの家族もパーティーに行きます。)

(注1)数詞がついているばあいは、□kuna□をつけてもつけなくてもよい。

(注2)目(ñawi)とか足(chaki)とか耳(ninri)とかのばあいは、□kuna□をつけない。また、じゃがいも(papa)やお菓子(misk'i)やパン(t'anta)のように普通集合的にもちいられるもののばあいにも、□kuna□はつけなくともよい。

(注3)金(qori)や銀(qo1qe)や鉛(tete)のような金属のばあい、また数えられないものや無限にあるもののばあいには、□kuna□をつけない。

⑦□wan□□puwan□□piwan□…接尾辞□wan□は同伴をあらわす。行為者は、誰かと一緒に、あるいは何かと一緒にその行為をおこなう。ときには、誰かの指導ないし教唆によりそれをおこなう。

【例】

Noqaqa tayta-mamaywanmi tiyani.(私は、私の両親と暮らしています。)

Miguelpas Huanwan rimashan.(ミゲルもフワンと話しています。)

Haqay machulachaqa alqochallanwanña tiyan.(あの老人は、いまでは犬とだけ暮らしています。)

Haqay waynaqa taytawan aqhata ukyashan.(あの若者は、自分の父親と一緒にチチャを飲んでいきます。)

Noqaqa wiraqocha Victorwanmi awayta yacharqani.(私は、ヴィクトル氏のもとで織

り方をならいました。) 接尾辞□wan□はまた、並列をあらわす。

【例】

Mamaywan panaywanqa aqhata qhatushanku.(私の母と姉が、チチャを売っています。)

Japoneskunawan Alemankunawan qheswata yachashanku.(日本人達とドイツ人達がケチュア語を勉強しています。)

Panachallaywan aqhayku.(私と私の姉だけで、チチャをつくります。)

Asukartawan kerosentawan rantinku.(彼等は砂糖も灯油も買いました。)

接尾辞□puwan□や□piwan□は、□wan□から派生したものと考えられる。一般に、□puwan□や□piwan□のついた人やものは、あとからつけ加えられたものであることを意味する。

【例】

Paykunaqa khuchitapuwan michishanku.(彼等は家畜を放牧しています。そして豚も放牧しています。)

Wasiyoqwan, warminwan, noqapuwan Qosqota risaqqku.(家主もその奥さんも、そして私も、クスコに行くでしょう。)

Istichapuwanmi ciniman risaqqku.(私達は、そしてエステバンも一緒に、映画に行くでしょう。)

T'antatawan, kachitawan, aychatapuwanmi munani.(私はパンも、塩も、そして肉もほしい。)

形容詞 □sapa□ の使い方

□Sapa□は、「おのおの」「それぞれの」という意味の形容詞であり、常に修飾する名詞の前に置かれる。なお、時間をあらわす名詞のばあいには□Sapa□の形のままで、しかし、それ以外の名詞の前では□sapanka□の形で用いられる。

【例】

Sapa p'unchay eskuylaman riyku.(私達は、毎日学校に行きます。)

Sapa killan qolqeta chaskinki.(あなたは、毎月お金を受け取ります。)

Erqechaqa sapa tutan waqan.(子供は、毎晩泣きます。)

Sapanka karru Urkusman rishan.(おのおのの自動車は、ウルコスに行きます。)

Sapanka Ilaqtapin qheswata rimanku.(おのおのの村では、ケチュア語が話されています。)

後置詞 □ima□ の使い方

この後置詞は、ふつう2つないしそれ以上の列挙された単語(名詞でも動詞でもよい)のあとに置き、「そのうえ」とか「など」と訳すことができる。

【例】

Mamayqa t'anta, kachita, asukarta ima rantishan.(私の母はパンや塩や、それに砂糖を買うところです。)

Paskucha, Victucha, Satuka ima pukllashanku.(パスクアルやビクトリアや、それにサトゥルニナも、遊んでいます。)

Haqay sipasqa haqaypi takishan tusushan ima.(あの娘は、あそこで歌ったり踊ったりしています。)

Asnunpiqa papata, lisasta, oqata, ch'uñuta ima apashan.(彼は、ロバで、パンやオユコイモやオカイモや、それにチューニヨを運んでいるところです。)

第6課の接尾辞

①□mu□…動詞的接尾辞□mu□は、運動をあらわす動詞(たとえば「phaway」走る、「apay」運ぶ、「haykuy」入る)につくばあい、その動作が話し手のいるところに向かって行なわれていることを意味する。なお、□mu□は動詞の語根と語尾(接尾辞)のあいだに置く。

| | |
|----------|------------------|
| Phaqay | 走る |
| Phawamuy | こちらに向かって走る、走ってくる |

【例】

Erqechaqa usqhaytan purimushan.
(子供がこちらへ早足で歩いてきます。)

Wakakunaqa asnukunapuwami kutimushanku.
(牛が、ロバと一緒に、帰ってきます。)

Haykumuy wiraqocha, ama punkupi sayaychu. (入ってきてください、あなた。ドアのところで立ち止まらないでください。)

Apamuchun mikhunata.(食事を持ってくるように言ってください。)

(注)ただし「riy」については、「hamuy」(来る)が対応しているので、この□mu□をつけることはない。

一方、この接尾辞□mu□が自然現象をあらわす動詞(たとえば「paray」雨が降る、「chiriy」寒くなる)につくと、それらの自然現象が話し手のいるところで起こることを意味する。

【例】

Paramushañña.(当地では、もう雨が降っています。)

Qayna wataqa agosto killapipas chikchimunmi. (昨年は、当地では8月にもあられが降りました。)

Paqarinqa kayneqpipas ruphayamunqayá. (明日、このあたりでも、きっと晴れるでしょう。)

Nahamantaña wayramushan.(当地では、さっきからもう風が吹いています。)

Kay llaqtataqa chirimushanmi.(この村では寒くなっています。)

(注)ただし、自然現象がおこる場所をあらわすためには、ふつう□pi□とか方向をあらわす接尾辞□ta□とかを用いることは、いうまでもない。さらに、接尾辞□mu□がそれ以外の一般動詞につくばあいは、その動作が話し手のいるところから離れた場所で行なわれることを意味する。なお、「puriy」(歩く)については、この使用法も最初の使用法もある。

【例】

Erqeqa Qosqo kallikunapiyá purimushan, riki.(少年は、きっとクスコの街を歩いているでしょう。)

Qosayqa orqopin llank'amushan.(私の夫は、山で働いています。)

Warmachayqa ñañaypapi mikhumushan.(私の息子は、私の姉のところで食事をしています。)

Qayna watapas Punopin aqhata ukyamurayku. (昨年も、私達は、プーノでチチャを飲みました。)

(注)これらの一般動詞が、接尾辞□mu□をつけた形で命令法の中で用いられると、「…しに行きなさい」という意味になる。

【例】

Yaw warmacha mut'ita mikhumuy.(おい、少年よ、ゆでとうもろこしを食べに行きなさい。)

Wakakunata michimuychis.(君達、牛を牧草地に連れていきなさい。)

Urpi sonqo, phaway kachichata rantimuy.(どうか、急いで塩を買いに行ってください。)

Paykunaqa llank'amuchunku, ñan tardina.(彼等を働きに行かせなさい。もう遅いのだから。)

②□ku□…接尾辞□ku□は、まず再帰動詞をつくるために用いる。また挨拶の中などで、たんに表現をやわらげ親愛の念をあらわすために用いられるときもある。

【例】

Makiyta maqchhikuni sapa p'unchay.(私は、毎日手を洗います。)

Luischaqa manan chakinta maqchhikunchu. (ルイスは、足を洗いません。)
 Turayqa ancha allin librota rantikun.(私の兄は彼自身のために非常によい本を買いました。)
 Qosqopi p'achakunata rantikamuni.(私は、クスコで自分のために服を買いました。)
 Haqay warmiqa erqechanta pusakapun.(あの女性は、自分の子供を連れていってしまった。)
 Señoracha allinllachu kakushanki? (お嬢さん、お元気ですか?)
 Imatataq ruwakushanki?(君は何をしていらっしゃいますか。)
 T'antachata mikhukushani.(私は、パンを食べています。)
 Qayna wataqa Urkuspiyá qosaywan tiyakusharayku. (昨年、私は、私の夫と一緒にウルコスで暮らしていました。)

(注)接尾辞□ku□は、接尾辞□mu□や□pu□の前に置かれると、□ka□に母音変化する。

③□pu□…接尾辞□pu□が運動をあらわす動詞につくと、その行為が起点、日常的な場所、長期滞らないし永住する場所等に移動することを意味する。

【例】

Manuelaqa erqechanta Limaman pusakapun.(マヌエラは、自分の子供をリマに連れていってしまいました。)
 Warmachakunaqa eskuylamanmi ripushanku.(子供たちは、学校に行くところです。)
 Llank'aqkunaqa chakramanta kutimpushankuña.(労働者たちは、すでに畑から戻ってくるところです。)
 Asnukunatapas llamakunatapas qatipusaqmi wasiyman.(ロバもリヤマも、私の家に追い立てていきます。)

(注)接尾辞□pu□が接尾辞□mu□の後に置かれるとき、「u」が脱落して「mpu」の形になる。たとえば、「kutimpuy」「hampuy」。

④□kama□…接尾辞□kama□は、別れの挨拶のときに用いられ、「…まで」と訳すことができる。

【例】

Huk ratukama.(またのちほど。)
 Paqarinkamayá.(では、また明日。)
 Tupananchiskamaña.(では、またお会いするときまで。)

また接尾辞□kama□は、時間の経過あるいは、ある特定の日付を示すときがある。そしてこのばあいには、「…するまで」とか「…するあいだ」と訳すことができる。

【例】

Luisqa kunankama pukllashan. (ルイスは、今も遊びつづけている。)

Noqaykuqa hamuq killakama kay wasipi tiyasaqku.(私達は、この家に来月まで住みます。)

Qayni-unchayqa turaykuna ch'isinkama aqhata ukyanku. (昨日は、私の兄弟たちが、日暮れまでチチャを飲んでいました。)

Wasi masiyqa sapa p'unchaymi chawpi p'unchaykama p'achakunata mayupi t'aqsamun.(私の隣人は、毎日正午まで川で服を洗濯します。)

Ñawpaqqa Kalkamantan qowita apamuranku, hinaspan chayta wata tukuykama uywaranku, kayneqqiqa manan qowi karanchu.(昔は、人々はカルカからクイを持って[買って]きて、それから年の終わりまでクイを飼っていました。このあたりではそのころクイはいませんでした。)

さらに、接尾辞□kama□は、ある動作が終わる場所、なにかが到達する場所をあらわすことがある。

【例】

Limamanta Tumbeskama karrupi rini.(私は、リマからタウンベスまで車で行きました。)

Llamapas P'isaqkaman chayanqa.(リヤマもピサクまで行くでしょう。)

Poqoy killapiqa, mayuqa chakra patakaman lloqsimun.(雨季には、川が畑のところまで氾濫します。)